



## 「その1冊からの 人生模様」

アバンセ館長  
大草 秀幸

同じ町内に住む全盲の 独り暮らしのおばあちゃんから1冊の本が町長室に届きました。相知町長だった4年前のことです。村尾靖子著「クラウドディア奇蹟の愛」(海拓舎刊)。終戦直後、引き揚げの北朝鮮でソ連兵にいわれのないスパイ容疑で強制連行され、愛妻と1歳の娘と引き裂かれてしまった蜂谷彌三郎さんのシベリア抑留の悲話でした。

すさまじい拷問と極寒の収容所での強制労働に、絶望し、幾度も死を覚悟しながら、ひたすら帰国の日を信じて耐えた抜いた彌三郎さん。しかし、ソ連邦崩壊後も監視の目は光り、自由の身にはなれませんでした。

囚人扱いを受けた彌三郎さんの苦境を深く理解し、励ましたロシアの女性がクラウドディアさんでした。境遇の似た二人はいつしか結ばれ、助け合って37年間を過ごしますが、故国の鳥取では妻や娘たちが、ひたすら彌三郎さんの生存を信じて帰国を待ち焦がれていることを知るのでした。

クラウドディアさんは苦悩と涙のうちに、独断で夫の帰国手続きを進めます。1997年3月、彌三郎さんは51年ぶりに祖国の地を踏み、妻子を抱きとめました。この話はテレビでも幾度か紹介され、テレビドラマにもなりました。

相知の盲目のおばあちゃんはラジオで知り、彌三郎さんとの交信が続いていました。「お会いしたい」というおばあちゃんの願いを聞き入れ、彌三郎さんを相知町へ講演に招きました。爾来、私もことあるごとに電話や手紙をします。

6月初め、奥さんの訃報が届きました。奥さんは自宅で彌三郎さんの腕の中で眠るように91歳の生涯を閉じられたそうです。「51年間待っていて、10年間の老いた新婚生活は幸せでした」。彌三郎さんも間もなく90歳です。クラウドディアさんも86歳。

悲劇の始まりは戦争でした。帰国翌年、ロシア連邦は彌三郎さんに名誉回復の復権証明書を発行し、無罪を認めました。日本とロシアの二人の妻。再婚せずに待ち続けた妻。自己犠牲の愛に耐えるロシアの妻。一冊の本をきっかけに、生きるということ、幸せということを幾度も考えさせられています。

目  
CONTENTS  
次

- 巻頭言「その1冊からの人生模様」……………1P
- レファレンスのデータベース化に取り組んでいます……………2P
- 親と子の読書のつどい県大会
- 図書館の上手な活用法……………3P
- 本のリサイクルフェア……………4P
- 本で見る佐賀
- 県内各館夏休みの行事計画……………5P
- 第4回郷土研究講座「島原の乱の実態を探る」……………6P
- 古文書の紹介「佐賀城下家臣の住所録」……………7P
- レファレンス事例から……………8P
- 行事予定 ●開館日カレンダー

佐賀県立図書館のご案内

所在地/〒840-0041  
佐賀市城内2-1-41(県庁東)  
TEL/0952-24-2900  
FAX/0952-25-7049  
Eメール/saga-kentosyo@manabisaga.jp  
ホームページ/http://www.pref.saga.lg.jp/kentosyo/  
開館時間/9:00~20:00  
[児童閲覧室は10:00~17:00]  
休館日/毎月の最後の水曜日  
特別整理期間(9月27日~10月2日)・年末年始